

日 時：平成 27 年 6 月 9 日（火）18 時 30 分 ～20 時 00 分

場 所：金屋地区多目的研修施設

対象地区：金屋

参加人数：34 名

■意見交換（まち・ひと・しごと創生への取り組みについて）

内 容
○プレミアム付き商品券発行事業について （市民からの要望・質問） プレミアム付き商品券は1人いくらまで購入できるのか。 （市の回答） ・1世帯10万円までである。
○駅前イルミネーションプロムナード事業について （市民からの要望・質問） イルミネーションをやるのなら、蔵やクロマツとの相乗効果で演出して誘客を図るのはどうか。 （市の回答） ・イルミネーションは11～1月に駅前では計画している。平川市らしさを出したイルミネーション、イベントにしたいと考えている。

■要望、質疑応答

内 容
○平川市有林金屋山（青森市浪岡細野・相沢）の杉山の管理と林道整備について （市民からの要望・質問） 金屋山の管理作業が行われないことにより、杉の品質低下を招き、価値が低下し、収入の減少が懸念される。また、林道が整備されないと、杉の伐採作業に支障をきたすことが想定されることから、平川市が青森市と連絡をとり、林道整備の対応策を進めてほしい。 また、所有者である平川市が臨時作業員を雇い、杉山の管理作業を実施するため予算措置をしてほしい。 （市の回答） ・市でも現地を確認し、林道が壊れている認識があるが、行政区が違うため青森市との協議が必要である。青森市でも現場を確認したようだが、すぐ対応できるかはわからない。 ・伐採するのであれば、林道を整備しないと運び出しができないため、青森市に引き続き依頼、協議する。 ・下刈に関しては、杉が成木になっていれば杉の品質には影響ないのではないかと。

- ・杉は30年で柱1本とれるということから、国でも杉の植林を進めていたが、現在は、単価が安いので、伐採・間伐がされず、放置されている山が多い。間伐をやったあとでも手入れのされない山も多い。全国的に同じ状況である。
- ・国が、バイオマス発電に対して、1kwあたり32円で買い上げるのは、発電事業だけではなく、間伐を促進するねらいもある。植えてから30年までは補助事業があるが、30年過ぎた山にはないため、手入れのされない山が多くなることから、バイオマス発電で間伐が促進されることに期待しているところである。
- ・旧尾上町と金屋町会とで、無償譲渡された当時、販売した際の取り分を6：4としたことだが、国の分収造林制度は国6、所有者4という割合であった。近年は、林業の不振により配分をさげている。数年前、青い森農林振興公社が解散した際、県は、財産区の場合は8：2、民有林場合は7：3と配分を下げることで、県民の理解を得ようとしたことであった。旧町会との契約となれば、どのように理解すればいいかわからないため、持ち帰って調べてみる。
- ・伐期をむかえている木は、運び出さなければならないので、林道の整備が必要となると思うが、行政区が青森であることから、市の予算で事業を実施することは難しいので、青森市と協議していく。

○庭園のクロマツの経費について

(市民からの要望・質問)

金屋地区では、農家蔵と庭園めぐりを実施しているが、庭にあるクロマツが切られたり、売られたりしている。それはクロマツの手入れには、かなりの経費がかかるためである。農家蔵と庭園めぐりの存続のためにも、クロマツのある庭園を保つために、市の花鳥木でもあるクロマツの手入れの費用に助成できないか。

(市の回答)

- ・金屋のNPO法人の方が、農家蔵と庭園めぐりで、平川市の文化の発信に大きな役割を果たしてくれている。蔵の維持費には少し予算をつけているが、個人の庭はボランティア的にやってもらっている。高校生もボランティアガイドで参加している。
- ・盛美園は国指定名勝であるので、国等から管理費に助成がある。個人の庭をお借りして庭園めぐりをしているが、一般の庭のクロマツの維持に助成するのは難しいと思う。それがなければ、蔵と庭園めぐりができないとなれば、対策しないとイケない。協議してみるが、難しい。

○農繁期の農道への臨時標識・広報について

(市民からの要望・質問)

田植えのときに農道を猛スピードで走る車があった。事故が起きる前に、農繁期だけでも、臨時の標識や広報などで対策をしてほしい。南田中では、田植えの時に生産組合で立て看板をやっているようだ。南田中は組織があるからできるが、自分たちは難しい。

(市の回答)

- ・先日、北海道でも大きな事故があったが、猛スピードで走るのは農道であれ、大きな道路であれ、悪いことだ。運転手のモラルの問題であるので、広報に出すだけでは解決にならないのではないかな。
- ・交通安全協会でも、スピードの出しすぎや飲酒運転などの撲滅運動をしている。地道に積み重ねていくしか対策はないように思う。
- ・臨時の標識も猛スピードで走る車に、効果があるのか疑わしい。
- ・交通安全協会に農繁期の時だけでも、できる対策があるか聞いてみる。

○刈取りの人夫について

(市民からの要望・質問)

金屋では、りんご共防がなくなったため、りんごの木の手入れが増えている。中山間事業で刈取りをしているが、人夫が足りなくて困っている。

(市の回答)

- ・中山間事業では農地を手入れすることによって、利活用の組合に補助している。手入れをしないと補助がないということで、刈取りしていると思う。
- ・広船では、基本的には園地の持ち主が手入れをすることになっている。草刈をしないと中山間事業の面積から外すことにしている。金屋はどうなのか。

(市民からの要望・質問)

女の人だけや年寄だけの家庭が持ち主の場合は、刈取りをしてあげる必要があるのではと思い、組合で刈取りしているが、年々、増えているので困っている。シルバー人材センターに頼もうとしたが、傾斜が急な園地では作業が厳しいので人夫の確保ができない。

(市の回答)

- ・手入れできなければ中山間事業の面積から外すしかない。市で刈払いに人を出すことはできない。

(市民からの要望・質問)

中山間事業の面積から外すのはいいが、お金の問題だけではなく、隣の畑が草だらけになれば、病害虫などの被害を被ることになるので、刈払いをしてもらいたい。

(市の回答)

- ・藪になるのを防ぐため、組合で刈払いをしているのは、環境を保つためにいいことである。だが、人夫が足りないから、市で対応してくれというのは、できかねる。高齢者が多くなっているから、傾斜地の作業は難しく、りんごの木を切っている。金屋だけではなく、新屋でも尾崎でも広船でも同じような状況にある。気持ちはわかるが、難しい。

○地籍調査について

(市民からの要望・質問)

南田中などには、今年度地籍調査が入ると聞いているが、金屋はいつ入るのか。

(市の回答)

- ・金屋地区は来年度から入る予定である。
- ・市内全部は予算的に無理なので、事業等で必要などところだけをやることになる。
- ・尾上・平賀地区は昭和 40 年代に国土調査をしているが、かなりの狂いがあるため県を通して国に要望している。青森県でもまだ地籍調査が終わっていないところもある中、2 回目の調査が入るのは難しい。

○病後児保育について

(市民からの要望・質問)

病後児保育ができるところを増やす予定はあるのか。

(市の回答)

- ・今年度は市内 1 か所で行っているが、要望があった割には、利用者はあまりいないようだ。農繁期やインフルエンザの時期など、需要が増えるようなら、受入れ施設を増やすことも検討するが、今のところは未定である。

○マイナンバーについて

(市民からの要望・質問)

5 月の広報に 10 月からマイナンバーが始まると載っていたが、運用、保管、注意、今後の使い方について教えてほしい。

(市の回答)

- ・今、正式に決まっていることは、10 月に、一人一人のマイナンバーが通知されることである。今後、顔写真が付いた身分証として使えるマイナンバーカードを作ることとなる。
- ・年金機構の個人情報流出の件もあり、対応が難しくなってきた。ネットでの個人情報流出について、国ももう一度、考える必要がある。

○亶理町との交流について

(市民からの要望・質問)

金屋地区では、尾上町時代に友好親善都市であった亶理町と交流していたが、平川市となってからどうして交流しなくなったのか経緯がわからない。亶理町との交流についてどう考えるか。

(市の回答)

- ・経緯については、合併協議の中で決まったことだと聞いている。
- ・金屋地区の人の思いはわかるが、新たにまた市として交流を始められるかわからない。
- ・合併の時に他市町村との交流について整理した。亶理町については、市と町としての交流はなくなるが、人と人との自主的な交流は続けてくださいということになった。